

令和元年度
第3回いわき市地域自立支援協議会
議事録

いわき市保健福祉部

議 事 録

会 議 名	令和元年度 第3回いわき市地域自立支援協議会		
日 時	令和2年1月28日(火) 午後2時00分から午後4時00分	会 場	いわき市役所 第8会議室
	【構成区分】	(氏名)	(所属・職名)
出席委員	学識経験者	山本 佳子	医療創生大学教養学地域教養学科 教授 【副会長】
		関 晴朗	独立行政法人国立病院機構いわき病院院長
	障がい者福祉団体	箱崎 孝	いわき市手をつなぐ育成会
		古館 信義	いわき市身体障害者福祉協会会長
		石井 静子	いわき市聴力障害者会副会長
		渡辺 さゆり	いわき地区自閉症児・者親の会会長
	障がい者福祉施設等	鈴木 繁生	いわき地区障がい者福祉連絡協議会 【会長】
		高木 郁夫	(社福)いわき福音協会 共同生活援助事業所シーズ所長
		古川 敬	(社福)育成会 理事
		谷平 耀宗	(社福)誠心会 事務局長
	障がい者関係機関	星 保男	いわき公共職業安定所 所長
		佐藤 清悦	福島県立いわき支援学校 校長
		神田 豊	福島県立平支援学校 校長
		栗村 嘉起	いわき障害者就業・生活支援センター 所長
	吉田 裕之	(社福)いわき市社会福祉協議会 生活支援課長	
	市民代表	大和田 宗子	いわき市ボランティア連絡協議会
欠席委員	学識経験者	田子 久夫	公益財団法人磐城済世会舞子浜病院名誉院長
	障がい者福祉団体	吉江 路子	いわき市盲人福祉協会 女性部副部長
		長谷川 勇三	いわき市腎臓病患者友の会

	【構成区分】	(氏名)	(所属・職名)
事務局	いわき市	柴田 光嗣	保健福祉部 次長(兼)総合調整担当
		園部 衛	同 次長(兼)健康づくり・医療担当
		武山 忠弘	こども家庭課 課長
		吉野 優子	保健所地域保健課 課長
		長谷川 政宣	障がい福祉課 課長
		根本 健男	同 課長補佐
		猪狩 大樹	同 事業係長
		工藤 慎也	同 支援係長
		安藤 成央	同 主査
		加茂 雄一	同 主査
	基幹相談支援センター	園部 義博	いわき基幹相談支援センター所長
		木村 活昭	いわき基幹相談支援センター
		本田 隆光	同 アドバイザー
いわき障がい者 相談支援センター	各地域	北部地域	
	相談支援員	小名浜地域 勿来・田人地域 常磐・遠野地域 内郷・好間・三和地域	
各専門部会	部会長	就労支援専門部会 児童・療育専門部会	
配布資料	○次 第		
	○令和元年度第2回いわき市地域自立支援協議会資料		
	○令和元年度第3回いわき市地域自立支援協議会資料		
	○別冊「令和元年台風19号災害の対応に係るアンケート」		

○ 令和元年度 3 回地域自立支援協議会

I 開 会

II 会長あいさつ

III 議 事

議 長	次第に基づき、議事進行をさせていただきます。はじめに報告事項 1 「令和元年台風 19 号に係る対応」について事務局から説明をお願いいたします。
事 務 局	(資料に基づいて説明)
議 長	<p>只今、事務局より説明がありましたが、台風 19 号については皆さま様々な御意見、御考えがあると思いますが、この後の報告事項でアンケート調査の実施について報告があります。今後、委員の皆さまにもアンケートを通じて様々な意見を出していただきたいと考えておりますが、お二人ほど、台風等による水害対応についてお話しただけたらと思います。</p> <p>まず、〇〇委員が所属する法人のグループホームでは、利用者の方 100 名ほど事前に避難させた事案がありましたので、そのことについて御説明をお願いします。</p>
〇〇委員	<p>〇〇法人の〇〇です。よろしく申し上げます。</p> <p>はじめに、今回の災害の際には多くの皆様からの御支援、励ましの言葉等いただきました。この場をお借りして御礼申し上げたいと思います。ありがとうございます。</p> <p>さて、当法人の事業所は平窪地域を中心に事業運営しております。</p> <p>グループホームにおいては、平窪地区が 11 箇所、赤井地区が 2 箇所、計 13 箇所のグループホームが被災しました。</p> <p>また、事務所として使っていた生活介護事業所と、その隣りに所在していたグループホームのサブセンターも被災しました。グループホーム利用者の 40 名が実際に自分の住んでいた所が水に浸かったという状況でした。</p> <p>浸水はなくとも周辺地域において水害による被害を受けたグループホームのサービス利用者を合わせれば 60 名近くだったと思います。</p>

法人における災害対応への動きとしましては、台風が来る前日に避難することを決めまして、10月12日の朝9時ぐらいからサービス利用者の事前避難に職員が動き始め、法人敷地内の集会施設と、入所施設の作業場に分けて避難しました。

風雨が激しくなってきた頃には、避難完了という状況でした。

結果として、幸いにもそれで誰も怪我なく、怖い思いをすることなく、避難できました事を御報告いたします。

一時期は断水の影響もあり100人以上のグループホーム利用者の方が避難したのですが、徐々にライフラインが復旧するにつれて、各自のグループホームに戻りました。

現在は、法人の職員宿舎に18名、空いていた医師住宅（一戸建て）に5名、入所施設に1名、宿泊型自立生活援助事業所に3名という形で、未だ約30名避難している状況ですけれども、発災から3か月過ぎ徐々にではありますが、建物の復旧が進んできております。

生活介護事業所も、今年4月1日に再開をしようと動いております。もう少し時間はかかりますが、落ち着き始めてきた状況であることを御報告いたします。

議長 ありがとうございます。

まだ避難されている方もいるということですが、〇〇法人の動きは参考になるものがあると思いますので、今後、御意見などどんどん出していただけたらと思います。

次に、〇〇委員においては、ボランティアセンターの立ち上げから現在まで、大変ご苦労されたと思いますが、御意見をいただけたらと思います。

〇〇委員 〇〇と申します。私どもでは、市からの要請に基づきまして10月15日から市災害ボランティアセンターを開設いたしました。

現在まで活動いただいたボランティアの数は、約11,800人となっております。

対応したニーズですが、令和2年1月23日現在でボランティア要請943件中、934件が完了しました。残ニーズ9件で一桁になっている状態です。運営にあたっては市民の皆様を始め、県内外の社会福祉協議会、市内外の企業・団体の皆様から支援を受けて運営を行っております。

なお、災害ボランティアセンターについては、年明け以降は土曜日曜のみの開設で、事前に必要人数をホームページ及びSNSによって案内しましてボランティアを募集している状況です。

概ね、土・日曜に各5件程度ずつ対応している状況です。現在の残っているニーズは、例えば、ようやく家屋の床外しが終わったものの、これから床下の泥出しを行うニーズであったり、家具の移動等が残っていたりと、この様なニーズが対応してはまた要請が来たりとボランティアへのニーズが続いている状況です。

議長 ありがとうございます。

では、次に移らせていただきます。報告事項2「令和元年台風19号に係る障害福祉サービス事業所等へのアンケート調査の実施」について、事務局から説明をお願いいたします。

事務局 (資料に基づいて説明)

議長 ありがとうございます。

只今、事務局より説明がありましたが、内容等につきまして、何か御質問などがございましたら、お願いいたします。

なお、アンケートですが自立支援協議会委員用を受け取っておりますが、これは各委員が所属団体代表としてアンケートに答えるということによろしいでしょうか。

事務局 はい。議長の御質問のとおり、委員の皆様が所属する各団体等におかれまして、台風19号の際に行った行動や問題点等を回答いただきたいと思います。

議長 ありがとうございます。

アンケートの回答期限が2月3日(月曜日)となっておりますので、皆さんの忌憚りの無い御意見をお寄せいただけたらと思います。

それでは他ないようですので、次に報告事項3「第5次いわき市障がい者計画等の策定に係るアンケート調査の実施」について、事務局から説明をお願いいたします。

事務局 (資料に基づいて説明)

議 長	<p>ありがとうございます。</p> <p>只今、事務局から説明がありましたが、内容等につきまして、何か御質問などがございましたら、お願いいたします。</p> <p>無ければ次に移らせていただきます。</p> <p>次に報告事項4「地域生活支援体制強化事業の実施に向けて」について、事務局から説明をお願いいたします。</p>
事 務 局	(資料に基づいて説明)
議 長	<p>ありがとうございます。</p> <p>只今、事務局から説明がありましたが、内容等につきまして、何か御質問などがございましたら、お願いいたします。</p> <p>なお、資料のうち項目3の太枠で囲まれたものが、実現できそうな事業ということで、短期入所の空室確保事業と、体験専門のグループホーム確保事業については、今後も引き続き効果を検証していくということです。</p> <p>こういった検証一つ一つを積み重ねていくことで、障がい児者の生活を地域全体で支えることができますので、引き続き委員皆さんの御意見などいただき、市へ施策提言していきたいと思っております。</p> <p>ほかに御意見が無ければ、次に報告事項5「令和2年度社会福祉施設等施設整備に係る対象事業の選定結果」について、事務局から説明をお願いいたします。</p>
事 務 局	(資料に基づいて説明)
議 長	<p>ありがとうございます。</p> <p>只今、事務局から説明がありましたが、内容等につきまして、何か御質問などがございましたら、お願いいたします。</p> <p>特に御意見が無いようであれば、次に協議事項に入らせていただきます。</p> <p>次に協議事項1「【中間報告】令和元年度における地域自立支援協議会の取組」についてです。各専門部会等から報告をしていただきます。</p> <p>委員の皆様からの質疑につきましては、全ての専門部会等の報告が終わったのちに、一括して伺いますので御了承ください。</p> <p>まず初めに、「地域移行支援専門部会」の報告をお願いしま</p>

す。

事務局 (資料に基づいて説明)

議長 次に「地域生活支援専門部会」の報告をお願いします。

事務局 (資料に基づいて説明)

議長 次に「児童・療育支援専門部会」の報告をお願いします。

事務局 (資料に基づいて説明)

議長 次に「就労支援専門部会」の報告をお願いします。

事務局 (資料に基づいて説明)

議長 次に「当事者部会準備会」の報告をお願いします。

事務局 (資料に基づいて説明)

議長 次に「強度行動障がいのある人の地域生活支援検討チーム」の報告をお願いします。

事務局 (資料に基づいて説明)

議長 ありがとうございます。

各専門部会等からの報告は、以上になります。

内容等につきまして、委員の皆様から何か御質問などがございましたら、お願いいたします。

地域移行支援専門部会では、障がい児入所施設からの退所後の課題が上がっております。

また、強度行動障がいのある人の地域生活支援検討チームにおいても、障がい児入所施設から退所後の生活の見通しが立たないまま退所となっていること、障がい児入所施設から退所される方に行き場がないということで課題が提示されています。

高等学校入学時からチームとして支援に当たろうという意見も地域移行支援専門部会からありましたが、〇〇支援学校校長の〇〇委員や、〇〇支援学校校長の〇〇委員の方から、学校

における生徒の高等部卒業後の生活の見通しなど、現在ほどの様な問題点があるのか御意見いただきたいと思います。

まず、〇〇委員からお願いします。

例えばですね。障がい児入所施設から通ってきている方もいると思います。そういった方たちの高等部卒業後の行き場が、実際あるのかどうかという点と、支援学校の先生方も、将来、生徒たちが卒業した後はどうなってしまうのだろうと、現場で悩まれていると思いますが、この様なことに関して、現場の状況をお話しただけならと思います。

〇〇委員

在籍している生徒の卒業後についてですが、高等部においては、小学部から中学部、そして高等部に順を追って進学する生徒と、市内の中学校の特別支援学級から入学してくる生徒がおりますが、特に本校の場合は、中学校の特別支援学級から進学してくる知的障がいの生徒の割合が高いものですから、進路指導部が中心となって高等部に入学した時点から一般就労を含めた卒業後の生徒たちの出口をいかに確保するかが大きな課題であり、進路指導部が力を注いでいるところです。

むしろ重度重複障がいの学級に在籍する生徒たちの就労先については、ある程度予測できる状況にありますので、中学部の後半から高等部の3年生まで、ゆっくりとじっくりと在籍中から協力いただける事業所での実習を重ねながら生徒の実態に合った進路に進んで行くという状況です。

この様に生徒達の実態と、受け入れていただける事業所等のマッチングが在籍中の一番の課題としており、その後どのように適応しているかという部分については、1年をかけてフォローアップに努めています。

議長

ありがとうございます。

〇〇支援学校においては、生活の場というよりは就労先の確保、卒業後の就労をいかに繋げていくかが課題となっていることですね。

〇〇支援学校は、比較的、在宅で通学してくる生徒が多いのでしょうか。

〇〇委員

生徒全員、在宅から通学して来ます。入所施設から通学してくる形態ではなく、自宅から通学している生徒です。

<p>議長 〇〇委員</p>	<p>ありがとうございます。〇〇支援学校はいかがですか。</p> <p>〇〇支援学校校長の〇〇といいます。</p> <p>まず本校の通学状況ですが、以前は隣にあります〇〇〇〇から通学している生徒たちが圧倒的に多かったのですが、現在の割合ですと4～5%という状況です。ほかの生徒は自宅から通っています。本校には寄宿舎がありますが、この寄宿舎から通ってくる生徒たちが多いということになります。</p> <p>進路状況ですが、児童・生徒の実態の幅が広い状況があります。高等学校と同じような学習をしている生徒も若干名おりますし、更には障がいの程度も重い生徒もいます。</p> <p>最近の傾向としては、進学が実情に応じて減ってきている状況です。</p> <p>次に就労という点では、うまく就労に結びついている生徒はいるものの、車いすによる生活が主になっている生徒や、歩行が不安定な生徒は施設設備が課題になるところもあります。</p> <p>障害福祉サービスの就労継続支援A型又はB型に進む生徒たちもいます。障害福祉サービスの就労継続支援を経験して、最終的には一般就労を目指している生徒たちもいます。</p> <p>生徒の割合で1番多いのは症状の重い生徒たちであり、中には医療的ケアを必要とする生徒もいます。</p> <p>そういった生徒たちの進路先としては、生活介護の障害福祉サービス事業所です。その生活介護事業所も定員などの関係から曜日で利用できない事業所もありますので、週に2～3か所ぐらい、複数のサービス事業所を利用しています。</p> <p>更に医療的ケアを必要とする生徒は、医療的ケアを提供できるサービス事業所が少ないので、限られたサービス利用機会の中には、もしかすると週に特定の日にはサービスを利用できずに自宅に居る状況もあると思います。</p> <p>今年3月に卒業する生徒たちは、とりあえずそれぞれの進路が決定したところです。</p>
<p>議長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>それぞれ進路で大変悩まれているようですが、施設入所となると本市の話とは異なってしまうかもしれませんが、相双地区の〇〇支援学校だと東日本大震災によって避難されている方もいるとのことで、避難先の入所施設から通っている生徒も大勢いると思います。</p> <p>今、〇〇委員からも医療的ケア児のお話がありましたが、</p>

厳密にいうと医療的ケア児と重症心身障がい児者は違う訳ですけれども、〇〇委員が在籍する病院では重度の障がいをもつ方がおられると思いますが、児童・療育支援専門部会で「医療と福祉の連携について」という課題があげられています。〇〇委員から御覧になって今後の医療と福祉の連携を進めていくのにあたって、課題やこういった事をやった方がいいのではないかと、御意見がありましたらお願いしたいと思います。

〇〇委員

〇〇病院の〇〇と申します。

現在、当院は重度心身障がい者の方が約 80 名入院されており、また今回の新病院への移転にあたり、ショートステイのベッドを 4 床設置して運営しております。

今回の台風 19 号等による水害により、自宅での介護が困難になったお子さんが、長期に渡って利用していたことがありました。できるだけ利用者ニーズに応じでショートステイを少し柔軟に運営していこうと考えています。

もう少し意見を言わせていただきますと、綿密に連絡を取りたいのですが、やはり児童指導員の数などマンパワーが不足しており、未だニーズを吸い上げ切れていない面もあると思いますので、その点が課題であると思っています。

また、今お話しがあった「強度行動障がいのある人の地域生活支援検討チーム」からの報告に関連して、強度行動障害につきましては、ショートステイや日中一時支援で対処しています。

ただし、長期の入院となりますとなかなか難しい問題があります。当院は医療的ケアで人工呼吸器を必要とする方を多数抱えていることから、同時に強度行動障害に係る方を看るとするのはなかなか難しい問題もあります。そういう意味で、長期の受け入れがなかなか進まない理由があります。

東北地方で重症児病棟を持っている病院は国立病院機構内では色々ありますが、強度行動障害への対応病院は岩手県花巻に 1 箇所あるだけです。この様な状況は、我々も課題と思っていますが、解決にはなかなか難しい問題であるのが現状です。

このことから、当院の空いているショートステイのベッドをいかに活用していくかによって対応を考えている所です。

議長 ありがとうございます。

〇〇病院は医療と障がいのある方の繋ぎ役であり要になる存在ですので、今後とも御尽力いただけたらと思います。

今、強度行動障害の話が出ています。障がい児入所施設からの退所者についても強度行動障害があることによって、なかなか次に繋がっていかなということがあるようですけれども、〇〇（団体）の〇〇委員から御家族から聞いている生の声や、行き場がないという悩みがあれば、お話しいただけたらと思います。

〇〇委員

〇〇（団体）の〇〇です。私の所属する団体の会員の中には入所施設に子供が入っている方、在宅でサービスを利用して生活している方がおりますが、強度行動障害のために行き場の無い方で当団体に入会する方ではあまりいらっしゃいません。

支援学校を卒業した方の卒業後の生活になりますと、在学時にはあまり問題がなかった方でも卒業後に問題が出てしまう方や、障害福祉サービスを利用するようになって、その後うまくいかなくなって家に籠りがちになってしまう方などの話は聞きますけれど、当会で活動している方には、これらの問題に悩む方は少ないかなと思います。

当会では会員同士の情報交換や勉強会なども開いており、その効果もあつてか、行き場に困るそういった方があまりいないという状況です。

議長

ありがとうございます。

今の〇〇委員の話において、団体の会員に所属している方には問題に悩む方が少ないというお話がありましたが、まさにその通りだと思います。何らかの理由で委員の所属するような団体に入れず、問題の解決に悩んでいる方々にこそ、支援の手を差し伸べていかなければいけないと思います。

また、支援学校の委員からは就労について話題が出ていましたが、就労支援専門部会においても課題等が挙げられております。

〇〇委員の方では就労の課題について関わっているかと思いますが、障がいある方の就労の現状について一言いただけたらと思います。

〇〇委員

はい、障がい者雇用の部分に関しては、本市は県内でも障がい者雇用の数字的なものは高いものがありますが、全国的な平

均的な値よりは上回っているところです。

就労支援部会の課題の中にある1つ目は、就労定着支援事業についてです。全国でも事業所の開設が進んでいない状況にあります。

先日、その件で国のヒヤリングがあり、いわき市でも就労移行支援事業所が8事業所に対する就労定着支援事業所は1事業所なので、まだまだ就労定着に必要なサービスの普及が進んでないという実感です。

なぜ進んでないのかということと、県内でも20箇所の移行支援事業所があるうち就労定着支援事業所は20分の8、この数字は全国的に見ても高い方ですが、やはり25%程度しか就労定着支援のサービス提供が進んでいません。その原因は国もヒヤリングをかけて調査しているところですが、今後の報酬改定で制度の枠組みの変化などの改定があるのでしょうか。

また、市として就労定着支援に係る今後の具体的な取組について考えや制度理解といった趣旨での説明会など、今後予定しておりますでしょうか。

議 長 市でそういった制度説明会とか予定しているのかどうか、という所をお聞きしたいということですが、よろしく願います。

事 務 局 制度改正の詳細などが決まっていない現段階におきましては、セミナーや説明会などの予定しておりません。

就労定着についてとある新聞記事がありました。身体、知的、精神の障がいうち、精神の方の就労定着が難しく、その定着率は5割程度。知的の方で7割、身体の方が6割といった記事がありました。

私どもの事業であるチャレンジ従業員においても、精神障がいをもつ方を本年度採用して一緒に働いていますが、やはり毎日仕事に出てくるように支援することの大変さが身を持って感じました。

特にこの精神障がいをもつ方の定着をいかに支援していくのかということ、現在ハローワークや障害者就業生活・支援センターでも力を入れていらっしゃると思いますが、その新聞記事には、例えば「今日は、仕事に出られません。」という電話があったとすれば、どこがどう具合が悪いのか、そのチェックシートを作ってなるべく課題を事前に見つけて、仕事に出て来

られるような環境を作る。単に調子が悪いという理由に「ああ、そうですか」で済ますのではなく、支援を次に繋げていくためにはどうしていくのかを考えるという、チェックシートを作って対応している企業が紹介されていました。

その意味で当課としても、特に精神障がいの方を中心にいかに定着させていこうかという施策を考えて、力を入れていく必要があるなど感じております。

ハローワークからの御意見、私どもからもお伺い出来たらと思います。

議長　　いまのところ制度設計等々の説明などの予定はないようですが、個々の「なぜ？」という声を聞いていかなければいけないと思います。

〇〇委員と事務局からも公共職業安定所の〇〇委員の意見を是非お聞かせ願いたいということなのでよろしくお願い致します。

〇〇委員　　〇〇の〇〇です。

只今、〇〇委員と事務局からお話しありましたが、障がいの就職支援、定着支援といったものを行っておりますが、先ほど障がいの雇用率についてお話しが出来ますが、実は昨年6月1日現在のいわき地区管内の雇用率について申しますと、法定雇用率2.20%を何とか達成できた状況にあります。

確かに障がいの雇用はこの数字を見ると法定2.20%に対して、実雇用率は2.20%なので基準をクリアできていますが、そのなかでも障がい者雇用をしていない企業は70数社あったと思います。雇用ゼロの雇用事業主がいるだけではなくて、雇用達成できていない企業がやはり多いです。

その中でも、ハローワークへの登録はどちらかといえば身体障がいの方が多かったのですが、最近は精神障がいの方の登録も大分伸びてきております。

こういった中で、やはり定着支援の部分については、どうすれば定着支援が進むことができるのかと、各企業と様々な形で連携を取りながらの進めている部分もあります。

そういった意味はハローワークに精神障がいの雇用トータルサポーターを配置して集団セミナーなどを実施しておりますが、この事業そのものが始まったばかりであり、目に見える形での定着支援までは行きついていないと感じているとこ

ろです。

こういった精神障がい者の雇用トータルサポーターを活用しながら、集団支援であったり個別支援であったりという形で次年度以降についても事業を進めていき、定着支援を図っていきたいと考えています。

この事業によって具体的な数字が着実に伸びるかどうかにについては、様々な視点で今後見据えつつ取り組んでいきたいと考えております。

議長 ありがとうございます。

精神障がいをもつ方の定着支援について、今後みんなで考えていかなければならないという、大変貴重な御意見でした。

各専門部会それぞれが深掘りしていき、各専門部会で課題を抽出して課題に取り組んでいますけれど、今回の報告を受け、委員の皆さまの意見をそれぞれ聞いていますと、専門部会を横断的に共通している問題が見えてくると思います。

各専門部会で深掘りしていくことも大事ですが、委員の皆さま方の意見を聞いて横の繋がりをもって、またある時には専門部会の方からこれだけ各団体の方々が委員におられますので、何かあれば相談していただいたり、知恵を拝借したり遠慮なくしていただけたらと思います。

ほかに御意見、御質問などございますか。

〇〇委員 専門部会の全体の中間報告を先ほどから聞いていまして、感じたことが1つあります。その感じたことに基づいて、質問させていただきます。

専門部会において、〇〇〇〇会議とか、〇〇〇〇連絡会とか、〇〇〇〇研修会、プロジェクトチームの会合ですとか、勉強会ですとか、連絡協議会ですとか、すごい数の会議が開催されていますよね。全部足したら幾つになるのだろうっていうぐらいの集まる機会、研修も含めてです。

各法人の事業所にも協力を頂いてとありましたが、支援現場の職員のマンパワーの余力が無いのは皆さんも当然ご存じだと思うんです。これだけの集まりに、どれほどの協力が得られているのか、或いは断られる機会が相当あるのではないかと感じます。

職員の数が足りないので会議に人を出せませんと、そういうことは許されるのでしょうか。これだけ専門部会ごとに多くの

議 長	<p>集まる機会を設けているようですので、いかがですか。</p> <p>特に地域生活支援部会の方で、新たな連絡会の立ち上げが続いているようなので、地域生活支援部会から回答いただけたらと思います。</p>
事 務 局	<p>御指摘のとおり、地域生活支援部会だけでも各事業所別に連絡会がございまして、開催頻度等につきましては各連絡会の中で無理のない範囲でということで、決めさせていただいております。</p> <p>人の集まりの具合ですが、実際いいかと言われますと、なかなか難しい状況です。特に施設入所や短期入所の連絡会など、なかなか配置している職員体制的に会議へ出席していただくことや会議の開催自体が難しい状態です。</p> <p>しかし、グループホーム、居宅介護、生活介護においては、課題が明確に集まった人たちの中で出てきています。</p> <p>例えば、居宅介護でしたら、高齢の方から参入してきて障がい者に対するサービス提供においての悩み。生活介護等では送迎の問題です。広域な本市をカバーする送迎の問題を協議して、ともに創り出せる資源の開発を出来ないかなど、問題が明確になったことで足掛かりが見えた案件に関しては、皆さん進んで出席していただいております。</p> <p>引き続き各連絡会、研修会等が複数ありますが、仕事を増やすものではなく、今の業務負担をいかに軽くできるか、横の繋がりによって仕事の負担が軽くなればいいという目標を目指して取り組んでいるものですので、今後も現場の皆さんの声を聞きながら、無理のない開催頻度で話し合いの場を開いていきたいと思っていますところ です。</p>
議 長	<p>〇〇委員、いかがでしょうか。</p>
〇〇委員	<p>現場支援の負担が軽くなる方向であるということを感じて、職員を出していきたいと思 います。</p>
議 長	<p>ひとつの考え方だと思いますが、これらの連絡会なりネットワークなりを立ち上げていくと、年に何回必ず集まり、それが何年も続いていくものだと思います。その中で淘汰されて残るものは残ることになるでしょう。</p> <p>今後は考え方を変えて、新たなプロジェクトチームを立ち上</p>

げるならば、半年後、1年後にプロジェクトチームの成果を出しましょうと、成果を出した時点で解散してもいいのではないかと思います。

連絡会であるとずっとそこに加盟して所属していかなければいけないので、課題についてプロジェクトチームを作って専門職同士が多職種で集まって課題解決。一定の成果を出したら次の課題に移るということで、解散する。

こういった条件であればプロジェクトチームに参加する側からにしても、課題整理にある程度期限が決まっている、その中で成果を出せばいい、出さなきゃいけないんだという課題と期間の明確な目標を持つことは、1つ考え方としてありますので、今後のあり方について検討を宜しくお願いします。

ほか御質問等ございますか。ないですかね。ではこれで、本日の報告事項及び協議事項は終了となりますが、「その他」について、何かございますか。

事務局

事務局から2点、委員の皆さまに連絡いたします。

1点目です。先ほど報告事項の中にもございましたが、委員の皆様には令和元年台風19号災害対応に係るアンケートをお送りさせていただいております。回答希望の期限を2月3日（月曜日）までとさせていただいておりますので、御協力をよろしくお願い致します。

2点目です。次回、第4回自立支援協議会の開催日について申し上げます。今回は、令和2年3月25日（水曜日）の開催を予定しております。

年度末のお忙しい時期だとは思いますが、出席について御協力をお願いします。

議長

他に何かございますか。特になければ、以上をもちまして本日の会議を終了いたします。本日は、ご協力ありがとうございました。

事務局

議長、ありがとうございました。

以上をもちまして、令和元年度第3回いわき市地域自立支援協議会を終了いたします。

IV 閉会